

進路だより

令和5年3月10日発行

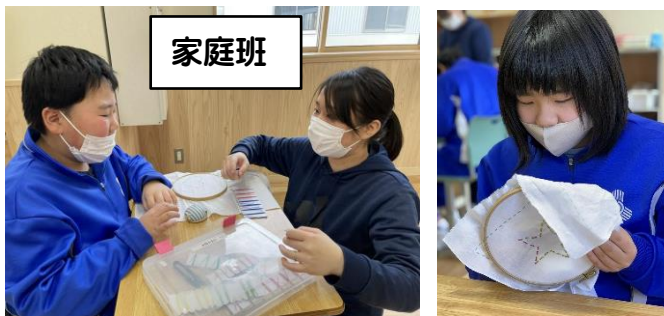
岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

令和4年度も残りわずかとなり、「進路だより」も今回で最終号となりました。最終号は1年間のまとめとして、学部ごとに児童生徒たちが進路学習に取り組んだ様子をお伝えします。

この進路だよりは学校のホームページに過去の記事を掲載しています。そのほか、「進路の手引き」や釜石大槌地区の各事業所情報なども掲載していますので、ホームページもぜひご覧下さい。児童生徒の今後の進路を考えるヒントになれば幸いです。1年間ありがとうございました。進路指導部一同

小学部



6年生が 中学部作業体験を行いました！

紙工班では牛乳パックのラミネート剥がし、家庭班では刺し子を体験しました。作業学習への参加は今回が初めてでしたが、3校時と4校時に時間いっぱい作業できました。

分からないことや難しいこともありましたが、「教えてください」と話し、前向きに取り組むことができました。また、上手にできて、先生に褒められると笑顔がこぼれるなど、後半はリラックスした様子も見られました。

入学後は仲間と共に、様々なことを学びながら成長する姿に期待しています！



中学部

1年間の作業学習のまとめとして、2月21日(火)に年度末作業製品販売会を行いました。後期校内実習から一生懸命作り続けていた製品をお客さんに買ってもらおうと、生徒たちは大きな声で、元気に接客をしました。今まで積み重ねてきた学習が、製品の出来や接客に十分に表れていました。たくさん用意していた製品はあっという間に完売となりました。

後日、販売会の売り上げでオードブルや寿司、お菓子等を購入し、作業お疲れ様会を行い、紙工班、家庭班共に自分たちの頑張りを称え合いました。自分たちが頑張ってきたお金で食べる食事は、生徒たちにとって最高の思い出となりました。

※高等部でもお疲れ様会はありますが、紙面の関係で今回は中学部の様子をお伝えします。



高等部
3年対象

移行支援会議②

～卒業後の生活に
見通しを持つために～



高等部では、2月から3月にかけて3年生全員を対象に「移行支援会議」を行っています。移行支援会議とは、『卒業後の生活へと移行する橋渡しとなる大切な会議』です。卒業後の本人・保護者の願いを実現するための情報交換、支援内容、支援者の役割分担等を確認していきます。進路先との引継ぎだけでなく、卒業後の生活全般に目を向け支援していくための会議です。会議の時間は1名につき1時間ぐらいです。

◎ 参加者及び確認事項

	福祉サービス事業所利用の場合	企業への就職の場合
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者・担任・進路指導担当 市町村福祉課 福祉サービス事業所 相談支援専門員 など 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者・担任・進路指導担当 市町村福祉課 企業 障がい者就業・生活支援センター ハローワーク釜石 など
確認事項	<ul style="list-style-type: none"> 移行支援計画の説明 本人、保護者の要望、利用開始日、利用時間、送迎、給食等の確認 福祉サービス事業所との共通理解事項の確認 福祉サービス手続きや障がい者年金、手帳等の説明、 相談事業所との確認事項 など 	<ul style="list-style-type: none"> 移行支援計画の説明 勤務時間、休暇、通勤方法、入社式、出勤について等の確認、 提出書類について等確認、 障がい者年金や手帳等の説明、 障がい者就業・生活支援センターからの支援についての説明 など

障がい者雇用プチ研修会



令和4年度障がい者雇用プチ学習会が、2月17日（金）に釜石・大槌地域産業育成センターを会場に行われました。最初に、いわて特別支援学校就労サポーター制度に登録し、5年間継続して支援していただいている釜石・大槌圏域の企業9社への感謝状贈呈式が行われました。特別支援学校と企業が連携し、企業への就労を目指す生徒の働く力を育成するための制度です。

続いて、令和4年度**障害者雇用職場改善好事例表彰**で**最上位の厚生労働大臣賞**を受賞した**有限会社西部産業（八幡平市）の吉田美保子さん**をお招きしてのプチ研修会です。西部産業は、養鶏業、鶏肉製造をしている会社で、従業員は123名、障がいのある方が37名働いている職場になります。**法定雇用率41.96%で岩手県第1位**を誇る企業さんの実践例を聞けるとあって、36名の関係者が会場に詰め掛けました。『障がい者雇用を始めたきっかけ、工場内の工夫、生活面を支えるグループホーム、障がい者雇用のメリットとデメリット、適正配置について』などの内容をお聞きすることができました。参加者からは、「障がい者雇用で工夫している事が参考になった」や、「自己評価が企業評価と違う場合の対応についての話が興味深かった」、「重度の方も実習させたところがすごいと思った」などの感想が寄せられました。

2時間弱の会でしたが、とても有意義な時間を共有できました。**吉田さんに感謝します。**

卒業おめでとう!!

この春、小学部3名、中学部3名、高等部9名、
しゃくなげ分教室(中)1名、(高)2名が卒業します。

氏名	進路先
O・Yさん	釜石中学校特別支援学級
K・Mさん	釜石祥雲支援学校中学部
K・Sさん	釜石祥雲支援学校中学部

◎小学部

小学部は楽しかったですか？次の進路先でも存分に学校生活を楽しんでください。

◎中学部

自分を信じ、自分らしく、それぞれの良さを発揮して充実した学校生活を送ってください。

氏名	進路先
K・Aさん	盛岡聴覚支援学校高等部
S・Aさん	釜石祥雲支援学校高等部
M・Sさん	釜石祥雲支援学校高等部

氏名	進路先
S・Sさん	まごころ就労支援センター釜石
O・Fさん	まりん、わらび学園
K・Mさん	釜石市福祉作業所
S・Aさん	まごころ就労支援センター釜石
S・Hさん	SMC株式会社
H・Hさん	SMC株式会社
F・Iさん	つくし共同作業所、まりん
H・Kさん	わらび学園、まりん
M・Sさん	かまいしワーク・ステーション

◎高等部

自分の進路を決めるために実習頑張りましたね。

ここが最終的なゴールではないと思っている人もいるかもしれませんが、そういう人は、卒業時の進路先で努力を重ね次のステージを目指しても良いと思います。

これからも、努力する皆を応援しています。

◎しゃくなげ分教室(中)

分教室の頼れるリーダーとして頑張りました。

氏名	進路先
S・Mさん	しゃくなげ分教室高等部

◎しゃくなげ分教室(高)

病棟生活でも楽しさを見つけ、自分らしく健康で過ごしてくださいね。

氏名	進路先
O・Kさん	釜石病院継続入所
N・Tさん	釜石病院継続入所

明るい未来へ スタート!!!

障害者雇用「代行」急増 法定率目的、800社利用

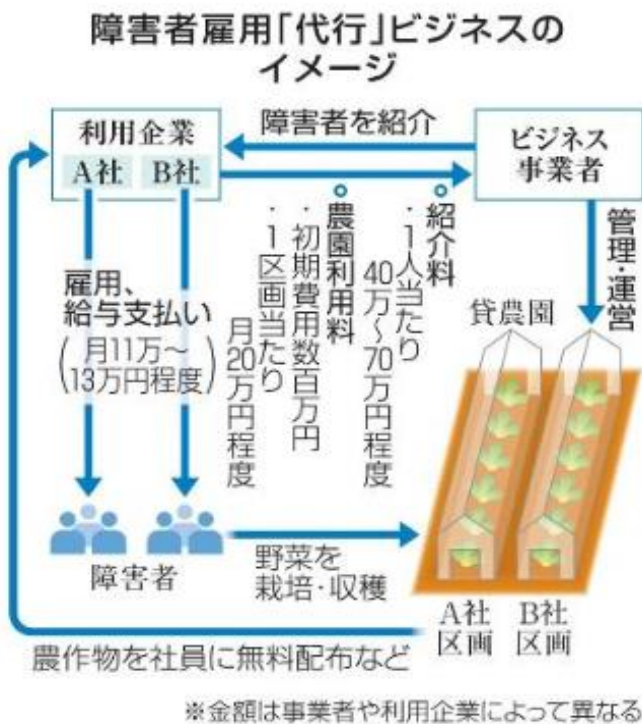
岩手日報 2023 年 1 月 9 日

法律で義務付けられた障害者雇用を巡り、企業に貸農園などの働く場を提供し、就労を希望する障害者も紹介して雇用を事実上代行するビジネスが急増していることが、厚生労働省の調査や共同通信の取材で分かった。

十数事業者が各地の計 85カ所で事業を展開。利用企業は全国で約 800社、働く障害者は約 5千人に上る。

大半の企業の本業は農業とは無関係で、障害者を雇うために農作物の栽培を開始。作物は販売せず、社員に無料で配布するケースが多い。違法ではないが「障害者の法定雇用率を形式上満たすため、本当の意味での雇用や労働とは言えない」との指摘が相次ぎ、国会も問題視。厚労省は 3月までに対応策を打ち出す方針だ。

**本当の意味での
雇用や労働とは
言えない！！**



背景の整理

- 企業は障害者に適した仕事を用意し、法定率に見合った人数を雇うのに苦勞している。
- 代行ビジネスは2010年ごろに現れ、事業者、農園数とも年々増加。農園には複数の企業の障害者が集められ、給与は各企業から支払われる。
- 福祉目的の作業所での工賃は、全国平均で月約1万6千円にとどまる
- 企業に雇用されれば十数万円の月給がもらえる。
- 岩手では、代行ビジネスは行われていません。

障害者雇用率 2・7%に引き上げ 26年7月、厚労省

岩手日報 2023 年 1 月 18 日

厚生労働省は 18日、民間企業に法律で義務付けている障害者の雇用割合（雇用率）を、現行の 2・3%から段階的に引き上げ、2024年4月に 2・5%、26年7月に 2・7%とすることを決めた。同日の労働政策審議会（厚労相の諮問機関）で合意した。

現在は、従業員 43・5人以上を雇用する企業が対象となっている。雇用率が 2・5%に上がると従業員 40・0人以上、2・7%に上がると 37・5人以上の企業へと対象が広がる。

厚労省は当初、同日の審議会で雇用率を 2・7%に上げる時期について、26年4月と提案。反対意見が集中したため、時期を 26年7月に修正して提案し了承された。

**雇用率が上がっても、どれくらいの企業が
守ってくれるかが大事なんです。**